

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1790100612		
法人名	(株)ケア・トラスト		
事業所名	ぐる〜ぶほ〜む笠市		
所在地	石川県金沢市笠市町11-19		
自己評価作成日	令和2年1月15日	評価結果市町村受理日	令和2年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 emu
所在地	石川県金沢市窪7丁目364 伏見台ガーデンコート西尾ビル506
訪問調査日	令和2年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にご自分で出来る事はなるべく続けて頂く事をとても大事にしています。又、役割を持ち、季節感のある生活をする事で、楽しみのある生活が継続できるように取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者様が穏やかな落ち着いた生活をされている。食事では刻み食の方や、ミキサー食の方もいらっしゃる中、普通食の方と同じメニューを食べやすく提供されている。ミキサー食も味付けやとろみなど、十分考慮されており、入居者様からは美味しいの声を寄せられている。品数も多く、食事を楽しみにされている入居者様の期待に応えられている。
また、様々な外出の機会を与え、数人での外出やイベントへの多数での参加など、入居者同士の馴染みの関係を構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念「価値観の統一」が職員の入れ替わりがあり、共有できていなかったの で、再度共有するために、各フロアに掲示していつでもみられるようにしている。	事業所の理念である「価値の統一」を徹底したいと、加価値の統一とは「利用者様への平等」、「誰がケアを行っても同じように」ということであると内容を明確にし共有した。また、周知できるように各フロアに掲示を行った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続して地域のお店での買い物や施設の利用を定期的に行っています。又、クリスマス会では、地域の認定こども園の園児にきてもらったり、昼食にお寿司をたべに出かけたりして地域との交流を大切にしている。	地域への買い物でアピタや平和堂に週に1度行かれる。お菓子や果物を購入することを楽しみにされている。外食も人気で特に近くのお寿司屋さんに行かれる。また地域のこども園の園児がきてお遊戯をしてくださり交流の機会を作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民や民生委員の方をお誘いし、認知症対応型共同生活介護という事業所の取り組みや現状の報告を行うことで、地域の方々への理解を深める努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う中で、毎月の取り組みの報告や現在の状況をお伝えし、参考にするために参加されている方に意見や考えをお聞きしています。また施設での事故やヒヤリハットについても報告を行っております。	今年から新たに民生委員の方にも参加していただけるようになったことで地域の悩みや問題も共有できるようになった。11月の運営推進会議では、ノロウイルス対策として、嘔吐物の処理の仕方を地域の方へ研修を行った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に金沢市介護保険課や地域包括の職員の方にも参加して頂き、こちらの情報もその際にお伝えさせて頂いております。	金沢市介護保険課や地域包括支援センターとは運営推進会議を通し情報を共有している。また、生活保護の方の支援課と連携を取られている。最近では成年後見人制度の手続きなどもあり、関係各所と連携を取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しましては全職員に身体拘束をしないことを徹底するために玄関事務所には指針を掲示し、外部、内部の研修にも参加し、意識の向上に取り組んでおります。又身体拘束委員会があり、代表者も参加している。	身体拘束自体についての理解はされているものの、スピーチロックについては発声することがあり、「待って」など発声してしまった後には、その理由や待ってほしい時間など明確にお伝えするように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルをもとに定期的に施設内研修を実施しております。又外部研修にも参加しており、学べる機会をもてるように取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用されているご利用者様で制度を利用されている方はおられないが、社内研修で学ぶ機会を設けており、今後も必要に応じて、職員への理解が深められるように取り組んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に正確に契約等について説明し、同意のサインを頂いております。また制度の変更や契約書の内容に変更があった場合は、その都度ご説明させていただき必要に応じて署名など頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者、ご家族、職員等の参加で運営推進会議を開催し、意見や要望がないかお聞きしております。意見や要望があった場合は速やかに検討させていただき、対応しております。又面会にこられた際にも意見要望をおききしている。	ご利用者とご家族の関係性がよくない方もいて、ご家族にはリスクの話や往診での対応や希望などをお聞きしている。面会に来られた際には必要があれば、医師や専門家を交え意見をお聞きすることもある。「外に出してあげて」などの要望には冬の時期はラジオ体操をしたり工夫をされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各階毎月代表者や管理者も参加する、フォーミーティングを行い、又、個人面談も年2回実施し、意見や要望などないか聞いております。	勤務に対する希望や有休に対する希望があり、勤務に対する希望では負荷のかかる時間に対してのフォローを行ったり、希望の日には有給休暇をとれるように配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員を対象とし面談を実施しており個別に話しをする機会をつくっています。また、仕事に対するやりがいを持って頂くため定期的に意見を聞く為に、話しやすい環境に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は定期的に開催しており、外部研修にも積極的に参加できるように調整しており、知識・技術の向上に繋がる機会をもうけております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や市が主催する研修会への参加の機会を設け、他事業所の職員との交流する機会を設け、サービスの質の向上させるための取り組んでいる。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。また入居後も困ったことや要望などがないかお聞きし不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用開始の経緯をご家族様から傾聴し、ご家族様、入居者様それぞれから困りごとや要望などお聞きすることで、把握し支援するようにしている。また入居者様に何か変化があった場合はもちろん、普段から近況の様子をお伝えしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される段階でまず不安な事や要望などをお聞きして対応させて頂いております。また入居後も困ったことや要望などがないかお聞きし不安な気持ちを取り除けるように支援を行っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様それぞれのできること、やりたいこと、生活歴を大事にして、時には一緒に家事をしたり、役割を分担しながら暮らしを共にする時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも職員が対応するのではなく、ご本人とご家族様の絆を大切にしながら、ご家族様にも協力していただきながら入居者様の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、友人など面会に来られたり、施設近辺のお散歩には行けている。また買い物がお好きな方には定期的にお買い物にお連れして、今までの生活が継続できるように支援している。	ご自宅が遠い方はなかなかそこまではいけないため、新しい関係を構築できるように近くのお店で今まで通りお買い物などできるようにされている。今までの馴染みの場所では近江町によく行かれる。通院の機会やご家族との外出などでも今までの生活を継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様と職員と一緒に家事を行ったりしながら入居者様同士の関わりが持てるように支援しています。又、レクリエーション、行事、ドライブなどを行い共に楽しみを共有できる機会を設けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族様やご本人様とは必要に応じて相談や連絡など行える体制となっております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中やご家族からの情報などにより入居者様が支援してほしいと思っていることを把握し、支援している。困難な場合でも入居者様の思いを傾聴し、ご納得いただけるように対応し、取り組んでおります。	外出に行きたくない方もおられ、その際には食べ物やティッシュペーパーなどの日用品の買い物代行を行っている。初詣を希望される方が多く、初詣にいたり、近くのお地藏さんへのお参りも対応されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様が過ごしやすい環境を作るために、生活歴や要望をしっかりと傾聴しサービスに取り入れるように支援しております。	新しくはいられた方は買い物が好きで週に1~2度買い物をご希望の方と一緒に出掛けられている。調理が好きな方には魚をさばいて頂いたり、お友達に会いたい方はご自身の携帯から電話をするお手伝いをし、来ていただいたりと個別対応されている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様それぞれの役割やお散歩などできることを継続できるようにお声がけし、記録類に残し、又会議等で情報共有しながら現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段からご家族様や職員と話し合いができる場を作り現状や要望等について話し合っています。また毎月モニタリングを行い、必要な会議で話しあって、介護計画を作成している。	ご利用者様には各担当がおり、担当者がモニタリングを実施し、会議で話し合い介護計画を見直している。変更は半年に一度定期的に行っており、入院や転倒のリスク、認知症の悪化があれば、その都度見直しをされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の普段の様子を把握し、共有するためにケア等の記録を個別に記載し、職員間で共有しております。また改善すべき点も共有し話し合いの場で検討しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるように、申し送りを活用し情報を共有し、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店での買い物や外出行事を行い、又車いすの方に関しても施設近辺への散歩の同行など、ご本人のできることが継続できるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居様は個々のかかりつけ医を利用されており、ご本人様、ご家族様の希望を大切にしております。又受診シートを活用し情報の共有をはかり適切にうけられるように支援している。	ほとんどのご利用者がかかりつけ医の往診をご利用されている。それ以外は眼科に通われていたり、ご家族と通院されている方がいる。往診での情報は共有できるように受診シートで管理されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が勤務しているため変化があったことは看護師へ相談したり、適切な対応ができるよう、連携しております。夜間も看護師がオンコール対応しており、急な変化にも対応できるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに入居様の情報をお伝えし、適切に対応できるように努めております。また入院後も医師、看護師、相談員、ご家族様と連携を取り情報交換し、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでい	入居様の状態に変化がみられた場合、ご家族様やかかりつけ医にすぐ報告しております。そのうえで医師の診断により終末期となった場合は、ご家族様と今後の対応について相談させていただき希望にそった形での支援を心が	最近では重度化された方、終末期の方はおらず、入居の際にどのような対応ができるか説明を行っている。医師の診断により終末期になった場合は、ご家族と相談し、希望に沿った支援ができる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故が発生した場合はすぐに緊急対応ができるように、研修など行っております。また看護師や管理者に連絡が取れるようになっており、多人数で対応するようにしております。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡網や対応についてわかりやすく、簡潔に記載してあるものを各フロアに掲示してあります。また普段から緊急時に対応できるようにマニュアルを基にした研修会を実施しております。	緊急時はグループホームの各フロアでスタッフが連携して対応できるようにしている。緊急時は管理者に連絡がいき、ご家族にも連絡がいくように研修会などを利用し、周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	かかりつけ医の先生とは往診時以外にも、入居者様の変化に伴い相談し、指示を仰いでいる。また協力医療機関や協力医療施設とは、病気・入院・重度化した入居者様の相談はさせてもらっている。	金沢病院や城北病院にかかりつけ医の紹介状で入院されることが多く、入院中や退院に対しては担当の方と連携をとっている。特別養護老人ホームや介護老人保健施設などは入居の状況を確認しあい、ご利用者様からの問い合わせにも応えられるようにしている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜間は各フロアーに職員を配置しています。また緊急対応が必要になった場合は他階からの応援協力を得ることで、看護師、医師、管理者等と連絡できるようになっております。	夜間はグループホーム、小規模多機能の3名の夜勤スタッフが連携して対応できるようにしている。緊急時は管理者に連絡が入り、必要に応じて看護師、かかりつけ医からの応援や指示を得ている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回、消防署の署員や設備会社に参加していただき行っております。また、災害が発生した場合のマニュアルも作成しております。	訓練は定期的に行われており、5月の運営推進会議の時には避難訓練も同時に開催し、地域の方には避難したご利用者様の見守りの対応を一緒にして頂くなどの応援体制を構築していきたい。と準備されている。	運営推進会議などを活用し、町内会にも防災計画や対策などもあると思うので、それを聞きながら町内会と連携することを期待する。
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	避難訓練は年2回、消防署の署員や設備会社に参加していただき行っております。また、災害が発生した場合のマニュアルも作成しております。	訓練は定期的に行われており、水害に対する訓練も行う予定をしている。以前も3階へ避難をしたことがあり、普段よりラジオ体操などで体が動かすようにしている。	川が近いため、水害を想定して水以外の備蓄を必要な分、少しずつ計画的に準備して頂くことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	社内の年間研修に組み込み、また外部の研修にも参加できるようにすることで対応できるように取り組んでいる。	ご利用者様のプライベートな時間も大切にしている。ご利用者様同士の揉め事に対しては、興奮されている方を散歩やお部屋に連れて行って話を聞いたり、一人一人の思いを大切にされている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様自身の思いを尊重するために自身で選択できることは自身で選択できるように希望を伺いながら、支援を行っております。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中は基本、フロアーにて過ごしていただいておりますが、傾眠が強かったり、お昼寝はご利用者様の意向をお聞きしながら、支援しております。また食事や入浴等特に希望がない場合は定時にサービスの提供を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後に身だしなみを整えています。ご自分でされる方もいますが、本人様に確認しこちらでさせていただく方もおられます。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器を拭いていただいたり、盛り付けをして頂いたり、できる方には一緒に取り組んでいただいております。また普段の食事メニューとは別に季節の食材や行事食の提供を行っております。	おせち料理を一緒に作ったり、おでんをご家族と一緒に作りついたり、たこ焼きを一緒に焼いたりしている。席でもやしの芽を取ったりと協力できることはしていただいている。また、お誕生日にはその方が食べれるケーキやプリンなどでお祝いをしている。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者様に合わせて食事形態を変更し、安全においしく食べていただけるように支援しています。また脱水にならないように1日の水分摂取量を把握し、飲みすぎや少なすぎることがないように支援しています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には毎食後と起床時に各入居者様に合わせた口腔ケアを行っており、自身で行える方に関しては声がけ見守りにて対応させていただきますいております。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はなるべくトイレで排泄できるように、誘導や声がけを行っております。また自立されている方も失敗がないか見守りをさせていただき、日ごろから状態の確認を行っております。	全介助の方は3名と少なく、自立やお声かけで排泄できる方が多い。場所が分からない方への工夫をしたり、放尿の方へはポータブルを導入することで解決したなど個別に対応されている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様ごとに毎日の排便確認を行っており、日々の水分摂取や歩行練習の声がけもしており、自力で便がでず、便秘症状がみられた場合は看護師や医師に相談し個々に応じた対応を行っております。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日には決めさせて頂いているが、時間はなるべく本人の希望にそった時間に入浴して頂けるように支援はしているが、一人での入浴が困難な方に関してはご本人の了承を得て、時間を調整させていただいている。	AM、PMと決めてはいるが、臨機応変に対応している。ほぼ計画通り入浴されている。入浴の際には好きな着替えを選んで頂いたり、保湿クリームやシャンプー、石鹸など好みの入浴時間を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的にはご本人様の過ごしやすくして頂いておりますが、昼夜逆転にならないように、日中に声がけし、起床を促したり、短時間のお昼寝をおすすめしたりして、夜間は安眠できるように支援している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は完全に嚥下するまで確認しており、誤薬がないように職員で2重チェックを行っております。新しい薬が処方された場合は申し送りやフロア一会議を通して職員間の情報共有を行い、副作用や症状の変化に注意しております。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみなど各入居者様のできる能力を生かしていただいたり、お買い物に出かけて買い物を楽しまれたりご本人が役割、張り合いをもって生活できるように支援しております。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出を好まない方もおられますが、定期的に初詣やお花見、ドライブなど本人様の意思確認をしながら外出の機会を設け楽しめるように支援している。	買い物、散歩、お地藏さんへのお参りは日常されており、県警のふれあいコンサートや左義長などイベントにも参加されている。左義長に持って行くために書初めを行ったりしている。何よりも外食は皆さま楽しみにされている。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金をご本人で管理したり、使用することができる方に関してはお買い物に行かれたり(職員同行)、職員が買い物代行をしたりしています。その他のご本人が管理するのが難しい方に関しては施設でお預かりしたり、ご家族様の管理をお願いいたします。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は使用可能となっておりますが、使用への要望は今のところない状況です。またご自分で携帯電話をお持ちのかたもおられ、職員に掛けてほしいと要望があった際には、かけて差し上げております。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日掃除しており、皆様が過ごしやすく汚れ・臭い・明るさなどに注意普段から清潔を保つように努めております。また、社内の環境委員会と協力して整備をしております。	掃除はご利用者様も一緒に午前中にモップを使って行っている。社内の環境委員会は年に2回巡回があり、チェックシートを元にチェックし、必要があれば改善し、環境整備に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや椅子があり好みの場所を選択し過ごせるようにしているが、皆様座りなれた場所で過ごされることがほとんどで、独りになりたいときは居室に行かれています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、冷暖房設備以外のものは、入居時に使い慣れたご自宅で使用されていたものを持ってきて頂くか使いやすいもの、こだわりのあるものを使用できるように支援しています。	こだわりのあるものは居室に持ち込まれていて、テレビ、たんす、布団、冷蔵庫、写真など様々である。居室はご家族が来られた時に一緒に掃除される方もいらっしゃる気持ちよく生活されている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる限り、声がけ、見守りでご自分で、できることは継続できるように支援しています、また安全に移動できるようにトイレなどスムーズに行けるように動線を確保し、環境整備を心がけております。		